備 前 市 事 務 事 業 評 価 シ ー ト

（平成21年度事業）

事業の概要

事業開始年度	（平成９年度）平成１７年度
総合計画 大項目	05 住民主体の協働のまちづくり
総合計画 中項目 基本施策	01 住民主体で進めるまちづくり
総合計画 小項目 施策	01 広聴広報
事務事業名	03 施設見学会事業

根拠法令・例規等	マイタウン・マイクロバス実施要領
問合先 担当課（室）	総務課
問合先 職・氏名	係長・河井健治
問合先 電話	0869-64-1800
このシート作成に要した時間	1.5 時間

事業の目的

対象（誰・何に対して）	市民レベルで組織された各種任意団体・サークル等
目的（何のために）	市民参加の行政を進めるうえで、市民の市政に対する理解・協力は必要不可欠なものとし、市民に市内の公共施設等を見学してもらい、市政に対する理解と関心を深めていただくため。
事業の意図する成果（どのような状態にしたいのか）	合併による市域拡大により、開催回数と参加人数が増加することで、旧市町、地域間の理解と、市政運営の理解と協力に資する

事業の実績

目的を達成するため実施した事業

細事業名	事業の説明	優先度
マイタウンマイクロバス運営事業	15人以上（25人未満）の団体等の申込により、半日市内公共施設等を市のバスで案内し、担当者などから施設の業務内容や利用方法などを説明する。 21年度、2団体（サロン西村（香登西）、坂根むつみ会（坂根））・41人	△

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性の評価を行って下さい

事業費等

決算額

事業費等	単位	平成19年度実績	平成20年度実績	平成21年度実績
直接事業費	千円			
必要人員 人件費	千円	0.01人 93	0.01人 93	0.01人 93
事業費計	千円	93	93	93
財源 国県支出金	千円			
財源 受益者負担	千円			
財源 繰入金	千円			
財源 市債	千円			
財源 その他（ ）	千円			
財源 一般財源	千円	93	93	93
受益者負担比率	%	−	−	−

結果指標名

結果指標

結果指標名	単位	平成19年度実績	平成20年度実績	平成21年度実績
開催回数	説明	マイタウン・マイクロバスの開催回数		
結果指標量	回数	6	2	2
対前年比	%	−	33.3%	100.0%
活動コスト	円	93,000	93,000	93,000
単位当たりコスト	円	15,500	46,500	46,500

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい

事業の成果

成果指標名	年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度目標値
開催率（%）	目標値（A）	100	100	100	100
	実績値（B）	100	100	100	到達目標値
	達成率（B/A）	100.00%	100.00%	100.00%	100

成果指標設定の考え方・式や説明

開催数／申込数

事務事業の評価

妥当性の評価

市の関与の妥当性必要性

- ☐ 市が実施するよう法令で義務づけられている
- ☐ 法令で義務づけられてないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす
- ☐ 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない
- ☐ 事業の内容が一部の受益者に偏っている
- ☐ 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている
- ☑ 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である
- ☑ 事業開始当初の目的から変化してきている
- ☐ 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている
- ☐ 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある

市民ニーズ

- ☑ 市民・団体等から要望・要請が強い

妥当性評価 <A～E>: C

効率性の評価

コスト手段

- ☐ 単位当たりコストは前年度と比較して改善している
- ☐ 実施方法（派遣・委託含）を見直すことでコストを下げる余地がある
- ☐ 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある
- ☑ コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい
- ☐ 受益者負担率は適正である
- ☐ 受益者負担率を見直す余地がある
- ☐ サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない
- ☐ 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある
- ☑ 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている

効率性評価 <A～E>: D

有効性の評価

目的達成度市民参画度

- ☐ 成果指標の設定は適切である
- ☐ 成果指標の到達目標値は達成できそうである
- ☑ 成果指標達成率は前年度と比較して向上している
- ☐ 成果指標達成率は80%未満となっている
- ☐ 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない
- ☑ 法定事務 ・ 内部管理事務 であり成果は求めにくい
- ☐ 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している
- ☐ 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している

有効性評価 <A～E>: D

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい

進行年度（H22年度）の改革改善内容

状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
			○				

説明

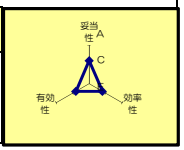
市政に理解を深めてもらうとともに、市内各地域の現状を見ていただくことで地域間の融和に役立てる意味を加味していく。より多くの市民に参加してもらうため、広報びぜん５月号に掲載するとともに自治会連絡協議会総会で資料配布説明を行う。5月末時点で2団体から開催希望の意向を聞いている。

総合評価

市内公共施設等を市のバスで案内し、直接施設の業務内容や利用方法などを理解してもらっており有効性は高く、参加者からは好評である。旧備前市で平成9年度から行っているためか、利用が旧備前市の団体等に偏る傾向がある。利用の促進とともに制度の趣旨や見学内容をホームページなどで公表している。

今後は市政に理解を深めてもらうとともに、市内各地域の現状を見ていただくことで地域間の融和に役立てる意味を加味していく。

評価区分 <A～E>: D



平成23年度の方向性 及び 取組目標

方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○					

取組目標

利用希望団体が減少しているが、制度は残しておき、開催希望者が主体的に市政の理解を深めたいという意向を尊重して開催（運行）することによりコミュニティづくりのきっかけにしていく。